国労盛岡
発行所　国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者　沢田光広
編集者　横内俊博
TEL 019-622-5021
メールアドレス
nrumori@poem.ocn.ne.jp
2019.5.10
第1529号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを
皆の力で」

「一緒に解消しませんか、
あなたの疑問。
加入まってます」

支部・地区協・分会代表者会議

職場でもうひと踏ん張りの拡大で 国労の運動を次世代に引き継ごう

地方本部は4月13日、盛岡市の盛岡国労会館にて第1回「支部・地区協・分会代表者会議」を開催。機関代表者等38人が参加した。会議は、本部・松川聡書記長が「国労の課題と方向性」（5年ビジョン）について問題提起し、地本・菊池要悦書記長からは国労の現状、組織強化・拡大、エルダー組合費の取り扱い、平和と民主主義を守る闘いの提起がされた。

討論では、5人の機関代表者が、職場における組織拡大の取り組み、過半数代表者選出選挙結果、JR貨物における新人事・賃金制度問題点、4月発足の新幹線統括本部等について発言。そして、「職場の問題解決には組織拡大しかない。全力で取り組み、次世代に国労運動を引き継ごう」と決意を固め合った。

機関代表38人の参加で意思統一

＝課題と方向性を話す本部松川書記長＝

会議は、阿部一久副委員長の開会挨拶の後、座長に選出された沢田光広委員長が「現在職場ではいろいろな問題が噴出している。その問題を解決するためには組織拡大しかない。拡大に向けた積極的な議論をお願いしたい。さらに、現在行われている統一地方選挙・7月に行われる参院選に勝利し、安倍自民党政権を退陣に追い込もう」と挨拶。

松川本部書記長から、「国労の課題と方向性」いわゆる5年ビジョンについて、①組織現状を踏まえた再雇用組合費の見直し②今後の組織・運動のあり方③4月1日のJR北海道における青年（20歳）の国労加入報告等をはじめとした組織拡大の取り組みについての3点にわたって提起がされた。その中では、特に重要なこととして「今後、組織拡大と並行して次世代の組合員の人材育成を計画的かつ積極的にすすめていくことが重要である。私たちは、国労の火を消すことはできない。それが、私たちに課せられた責任である。拡大の主戦場は職場である。職場で国労の姿を見せ、労働組合が必要だということを若い人に見せていかなければならない。自信と確信をもって組織の拡大を進めよう」と訴えた。また、地本菊池書記長は①地方の現状を踏まえた「国労の課題と方向性」について②地方本部における組織強化・拡大の現状について③エルダー組合費の取り扱いについて④平和と民主主義を守る闘いについての4点にわたった協議事項の提起をした。

討論では、5人の機関代表者からの発言があった。青森駅連分会の小原典昭分会長から長が「5年ビジョンの土台は『組織拡大』。国労運動を次の世代に引き継ぐためにも、全組合員が積極的に組織拡大を取り組もう」とまとめ会議を終了した。

今回、本部松川書記長からの「昔から言われているが、組織というのは消滅するのが常である。しかし、消滅しない方法もある。それは、その時代を読み取り、組織を残す努力をして、次世代に受け継いでいくことである。」という言葉が印象に残った。国労も70年という非常に長い歴史があり、多くの人たちが携わり、受け継がれてきた。私たちも、職場でもうひと踏ん張りをして、国労運動を次世代の組合員に引き継いでいかなければならない。

当面の主な日程

▽5月21日（盛岡）
第8回地方本部執行委員会及び第2回組織検討委員会
▽5月25日（盛岡）
参議院選挙勝利岩手県民総決起集会
▽6月8日（盛岡）
盛岡支部組織拡大対策会議
▽6月9日（盛岡）
仙台・盛岡地本家族会交流会
▽6月9・10日（千葉）
第13回全国組織拡大経験交流会

統一地方選挙

山崎道夫氏（矢巾町議選・組織内）
山名文世氏（八戸市議選・推薦）
が当選

斎藤憲雄氏（青森県議選・組織内）は届かず…

☆両目のだるまで当選を喜ぶ山崎氏☆

☆祝の花束を掲げ当選を喜ぶ山名氏☆

第19回統一地方選挙が前半戦4月7日投開票（知事選挙等）、後道府県議会議員選挙等）、後半戦が4月21日（市町村長選挙、市町村議員選挙等）投開票で施行された。

地方本部内でも前半戦の青森県議会議員選挙（青森市選挙区・定数10／12人立候補）の組織内推薦候補、斎藤憲雄候補（社会民主党公認・67歳）、後半戦では組織内推薦候補の矢巾町議会議員選挙（定数18人／20人立候補）に立候補した現職の山崎道夫候補（無所属・社会民主党推薦・71歳）と八戸市議会議員選挙（定数32人／35人立候補）に立候補した山名文世候補（社会民主党公認・70歳）の議席確保にむけ各地で運動を展開した。結果、山崎道夫候補は606票を獲得し11位当選。山名文世候補も2，089票を獲得し18位での当選を果たした。青森県議会議員選挙の斎藤憲雄候補は5，212票を獲得したが議席の確保はならず、残念な結果となった。

岩手県内では8年前の東日本大震災時に県議会議員選挙等が延期施行されており、今後8月投開票の盛岡市議会議員選挙、9月投開票予定の県議会議員選挙が施行される。合わせて今年は7月に投開票予定で第25回参議院議員選挙も予定されている。各選挙で運動を強化し推薦候補の当選を勝ち取り、地方、労働者の声をしっかりとあげていこう。

地方運転協エルダー組合員交流会

業務量・実態に合った賃金改善 希望に沿った早めの職場提示を

いま、多くの組合員がエルダー社員（JR東日本）・嘱託社員（JR貨物）となって、日々の業務に、組合活動に奮闘している。一方、再雇用に向けて不安もあり、交流を求める声がこの間の会議の中でも出されていた。地方本部はそうした声を受け止め、より具体的な交流を図るため職能別にて取り組むこととし、運転協議会の協力の下、4月20日に盛岡国労会館で運転協議会「エルダー組合員交流会」を開催した。エルダー組合員、エルダー予定組合員、両支部代表者などを含め全体で14人が参加した。

交流会は座長に大森修協議会議長を選出して進められ、地方本部・菊池要悦書記長が交流会の目的や課題について提起した。

参加者からは「当初は年金満額受給までの『つなぎ』的な意味合いだったが、今日では『一人工』として位置づけられている。業務量・実態に見合った賃金か、業務量・実態の緩和・改善を」「提示スケジュールの遅さは、本人の選択肢を狭めることに。前広な希望把握と希望に沿った早め提示を」など、エルダー制度の課題について声が出されていた。

職場を働きやすくしていくためにも組織拡大は重要。プロパー社員との交流を深める中で組織拡大に向け奮闘することを確認して、交流会は終了した。

ていこう

「年号が変わる時、どういう感じですか？」と28歳の社員から質問を受けた。そう言われて、30年前を思い出してみた。当時、分割民営化から2年が過ぎようとしていたが、国労への差別が続いており、とても苦しかったことが思い出された。私は彼に「あの時、測量会社に出向中であり、一生JRで働き続けられるか、今後への不安が大きかった」と答えた。すると彼は「今も同じですね。この会社で、今後、働き続けられるか不安だ」と笑いながら言っていた▼平成最後の月の4月に、統一地方選挙が行われた。あるテレビ番組で、投票率の低さと立候補者の少なさを史上最低と嘆いていた。この低さの原因は、職場にある。30年前は、労働組合として政治学習会を熱心に取り組まれ、労働者の代表を議会に送り込もうと活気があった。しかし、労働組合の組織率も平成元年には30％だったものが、現在は17％である。その結果、政治に無関心な国民が増え、投票率の低さに表れたのであろう▼5月1日に令和へと、年号が変わった。5月1日といえば、労働者の祭典メーデーである。起源は、アメリカのシカゴで当時1日の労働時間が12時間～14時間の時代に8時間労働時間をめざして、労働者が立ち上がった日とされている。今、職場では多くの社員が、不満・不安を持っている。この不満・不安を解消するためには、労働者が立ち上がるしかない。私たちは、若手社員に「君たちは労働者なんだよ」と訴え、労働組合の必要性を訴えていかなければならない。一歩一歩、確実に前に出よう。さあ令和を労働者の逆襲の時代としよう（横）

「宇都宮健児日弁連元会長が講演」

=400人参加=

参議院選挙、地方選挙など改憲阻止に極めて重要な闘い

「5・3憲法集会inいわて」

72回目を迎える憲法記念日の5月3日、「安倍9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会」の主催による「5・3憲法集会inいわて」が盛岡市・岩手教育会館において開催された。会場は400人の参加者で満杯となり、約一時間半にわたる宇都宮健児弁護士の講演に聞き入った。

集会は平和環境岩手県センター女性協議会・八重樫千晶議長の司会で進められ、来賓として出席した関根敏伸・斉藤信・小西和子各県議の挨拶に続き、第25回参議院議員選挙岩手選挙区に野党統一候補として立候補予定の横沢たかのりさんが「政治は生きるためのもの、生活をするためのもの。安倍自公政権に歯止めを掛けるべく、全力で闘う」と力強く決意を述べた。

続く講演では、「憲法の理想に現実を近づけるために」と題して、日弁連元会長の宇都宮健児弁護士が熱弁。その中では、「衆参同日選挙もあり得る政治情勢となっている。今度の参院選が改憲を阻止する上で極めて重要な闘いとなる」と前置きし、「経済大国の一方で高い貧困率が日本の実態。貧困と格差の拡大を是正するには社会保障の充実が必要であるが、安倍政権は財政難を理由として社会保障費の削減を進めてきている。一方、防衛費は7年連続で増額し、憲法9条の改悪は防衛費のさらなる増額と社会保障費のさらなる削減につながる可能性がある」と鋭く指摘。また、差別や人権侵害が横行している中で「憲法が保障する基本的人権を日本社会に定着させる活動が重要であり、民主主義の足腰を鍛えるためにも選挙闘争は重要である。そのためにも足元を固めることが大切であり、保守系無所属が多数を占める地方自治体の長と地方議会を変革していかなければならない」としていた。

集会は、講演後の「ピースパレード」で終了した。

なお、午前中は平和環境岩手県センターと社民党岩手県連合による街頭宣伝行動が取り組まれ、駅前での街頭演説と盛岡市内三コースにて宣伝行動を行った。

◇第90回メーデー◇

国労の旗掲げ各地の仲間と参加

▲国労も雨の中傘を差し参加（盛岡）

▲岩手県中央メーデー主催者を代表し挨拶する八幡博文連合会長と来賓の方々・盛岡城跡公園

▲集会後は天気も回復し2コースに分かれデモ行進・国労も元気に（盛岡）

▲国労も１５人参加、議員団の千葉信吉一関市議参加し挨拶（一関アイドーム）

▲国労も7人が参加（遠野・稲荷下運動場）

▲メーデーを終わり地区協で懇親会（一関）

▲宮古も雨の中のメーデー（宮古駅前広場）

▲青森地区で国労独自のメーデー開催（青森県労働福祉会館）

▲メーデー後は地区協でＯＢ、共闘の仲間も交え懇親会の記念のスナップ（宮古）

▲メーデー当日はチラシ配布の取り組みも（青森）

▲八戸地区協も国労独自のメーデー（地区協）

▲引き続き懇親会へ・先の八戸市議選挙で当選した山名文世市議も駆け付けた（地区協）

家族の幸せを災害から守る
火災共済 ⊕ オプション保障
火災共済の保障力を、
さらにアップさせる新制度。
近隣の家へ損害を与えたときの「類焼損害保障」、
日常生活での賠償事故に備える「個人賠償保障」、
賃貸住宅で火事を起こした場合の「借家人賠償保障＋修理費用」。
火災共済とセット加入することで大型保障を実現します。
B1424401E2144-20150209

交運共済ニュース

オプション保障（類焼損害費用保険、個人賠償責任保険、借家人賠償責任保険＋修理費用）は、共栄火災海上保険㈱を引受保険会社とする保険契約であり、共済ではありません。詳しい内容は必ずパンフレットおよび重要事項説明書をご確認ください。
みんなで暮らしをガード
交運共済（JR職域生協）
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合